

地域づくり活動の行動計画

公立富岡総合病院 緩和ケアチーム

2024年度
地域緩和ケア連携調整員研修 ベーシックコース

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
公立富岡総合病院 診療部	塩野 昭彦 (医師)
看護部	小池 瞬 (看護師)
看護部	齋藤 綾 (看護師)
薬剤部	小阿瀬 和江 (薬剤師)
診療部	磯田 美深 (臨床心理士)
事務部	佐々木 洋和 (医療ソーシャルワーカー)

① 選定した地域の課題

公立富岡総合病院で行っている往診、看取りは医療スタッフの意欲・情熱に依存していて、燃え尽き症候群や医療者の仕事量の増加による先細りの危険性をはらんでいる

病院に勤務する医療者内および、他院や他施設も含めて、職種間を超えた顔の見える関係作りが難しい

② どのような地域を目指すのか

- 高齢多死社会に対応し、在宅希望者は在宅で看取れるようにする
- 自施設ルールではなく、学会やガイドラインに沿った看取りの体制（DNAR指示など）を整備する
- 患者・家族に関わる医療介護福祉関係者が同じ方向を向いて意思の疎通が良好にできる場所を提供する

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- 在宅看取りの体制の構築・持続可能性を検討
- 訪問看護やケアマネージャーなど、在宅ケアチームとの連携
- 広報で市民やまだ参加していない医療従事者に対してPCT活動をPR

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

- 1) 5月を目標にPCT主催で対面の交流会を開催する
 - 交流会を通して在宅ケアチームとお互いのことを知る機会、困っていることを共有する
 - 口頭+手紙で配布してアナウンスする（開業医や介護保険施設、訪問看護、かぶらネットなどのネットワークを活用する）
- 2) 持続可能な在宅看取り体制を構築する
 - PCTがロールモデルとなって裾野を広げる
 - 広報でPCT活動をPRする
 - 将来的な目標として遠隔診療などを活用する